

あさひの日だまり

令和6年 4月5日(金)

NO.2

～入学式が行われました～



33名の新入生をむかえました

まず最初に、新入生のご家族の皆様、お子様のご入学おめでとうございます。また、入学式へのご出席心より感謝いたします。これから1年間、お子様のために「楽しい学校」創りに邁進してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

4日に入学式を行いました。たくさんの保護者の皆様と来賓の方々、町の教育委員の皆様に迎えられて、33名の新入生の皆さんが体育館に入場してきました。ステージ上でお話をする方が「入学おめでとうございます」と声をかけると、大きな声で「ありがとうございます」と返事をしてくれました。どんな人がどんなことを話

すのかな？と興味津々な感じの新入生でした。でも、お話が長くなると、だんだんと周りのことが気になりだしてきょろきょろしだす子もいます。色々なところが気になるということはそれだけ外の世界に対して興味関心があるということです。色々なことを吸収する力があるとも言えます。じっと前を向いてお話に集中している新入生にも感心させられましたし、あたりを一生懸命に眺めている新入生のこれからもとても楽しみです。

お母さんとお父さんに抱かれた赤ちゃんの絵を子どもたちに見せました。こうやって皆さんの大切な命が受け継がれているんだよ。というお話をしたかったのです。「この絵を見て下さい。皆さんはどこにいますか？」と尋ねました。「お母さんとお父さんの間！」という答えを期待していました。そうしたら多くの新入生が「学校です」と答えてくれました。「この絵の中だよ、この絵の中ならみんなはどこにいる？」と重ねて聞くと「いません」ときっぱり答えてくれえました。ステージの上でこの先をどう切り抜けようか途方に困りましたが、1年生の素直さに関心もさせられました。こんな素直で素敵な子たちとのこれからの学校生活がとても楽しみになりました。



～佐々木様から本の寄付をしていただきました～

佐々木亭文庫について



樋口にお住いの佐々木様から図書館に本を贈呈していただきました。始業式で、佐々木様が辰野東小学校へ本を送って下さるいきさつについてお話をしました。

その時のお話をのせさせていただきます。皆さんおはようございます。

今日から辰野東小学校の1年が始まります。今日は、始業式でこの本についてお話をします。この本は佐々木さんという樋口に住んでいる方が皆さんのためにこの春休みにプレゼントして下さいした本のうちの一部です。どうして佐々木さんが皆さんに本をプレゼントしてくれたかについてお話しします。

この写真を見て下さい。皆さんがいつも使っている図書館の中なんだけどわかるかな。

この紙には「佐々木亨文庫」と書いてありますね。

佐々木亨君はね、今から48年前に辰野東小学校に通っていました。そして、6年生になったばかりの4月28日、前からすごく楽しみにしていた遠足の日、突然の病気で亡くなってしまったんです。

亡くなった後、亨君のお父さんとお母さんが、辰野東小学校へ何回か本をプレゼントしてくださいました。いただいた本にはお手紙が添えられていました。その中の2通のお手紙を紹介します。最初は亨君のお父さんからのお手紙です。

今から30年くらい前、亨が6年生の4月28日の朝早く、急病で入院。お屋には亡くなってしまいました。幾日もたって悲しみの中、亨の勉強部屋を片付けていたら、本が2冊ありました。学校の図書館からお借りした本でした。「そうこれは東小の皆さんにうんと本を読んでもらおう」と本を寄付することを思い立ちました。30年の間に何回か寄付させていただき、「佐々木亨文庫」という名前まで付けていただき本当に感謝しています。心も身体も立派になり、ほんとの心がわかる人間、人を悲しませない人間になって下さい。

2通目のお手紙です。これは亨君のお母さんからのお手紙です。

「旅行貯金の大部分は、残ったお金として小野先生から渡されたまま家の机の上に使い主を待つように……。それから一年、掃除のたびに袋の誇りは払ってもらって、ただ切なく置かれていました。

私は、亨をこのお金を使って旅行させてやろうと考えました。そして何度か本屋さんへ行って、この「少年少女世界の大冒険」を探しました。私は亨と一緒に冒険してやろうと思い、暮れから正月にかけて全部読みました。この本でよかったと思いました。

この本を児童の皆さんに読んでいただきたく「佐々木亨文庫」の中に加えさせてください。

お手紙は以上です。

そして、この休みにみなさんへ佐々木さんからの何回目かの本のプレゼントがありました。

校長先生は考えました。佐々木さんはどんな気持ちでみなさんへ本をプレゼントして下さっているのかなって。佐々木さんの気持ちになって考えてみました。

プレゼントしてもらった本を皆さんが図書館から借りて読みますよね。亨君のお父さんとお母さんはみんなと一緒に亨君も図書館へ行って読んでみたい本を借りて、みんなと同じようにその本を読んでもらうんだという気持ちなんじゃないかなあ。

皆さんが借りてきた本を教室で読んでいるとき、同じように、亨君が天国でニコニコ笑いながら、図書館から借りてきた本を読んでいる姿をお父さんとお母さんは思い描いているんじゃないかなあ。校長先生は何かそんな気がするんです。だから、皆さんと亨君がワクワクしながら本を選べるようにこれまでたくさんたくさん本をプレゼントしてくれたんだと思うんです。

だから、たくさんの皆さんが図書館へ足を運んで本を借りてくれることが佐々木さんにとってはとっても嬉しいことだと思うんです。

今まであまり図書館へ行ったことのない人もぜひ図書館へ行って見て下さい。

今日の始業式では、「佐々木亨文庫」のお話と、佐々木さんから本をプレゼントしてもらいましたということをお話ししました。

校長先生のお話はこれで終わりです。